

あらためて考えたい、
分配型ファンドを
選ぶときに大切なこと。



分配金の高さで、分配型ファンドを選んで
いませんか？ 分配金だけでは、ファンドを
正しく評価できません。あらためて、分配型
ファンドの選び方や分配金のしくみについて
考えてみましょう。

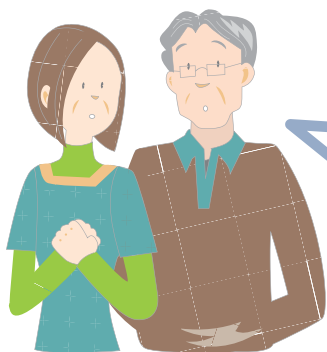


Fidelity フィデリティ投信株式会社
INTERNATIONAL

Part 1

分配型ファンドの 選び方

まずは、お客様からよくうかがう
質問への答えを通して、
分配型ファンドの選び方のポイントを整理しましょう。



Q

分配型ファンドは、
分配金が高いほど
良いファンドなのでしょうか？

A

分配金の高さだけで、
分配型ファンドを
評価することはできません。

分配型ファンドを選ぶには、**3つのポイント** があります。

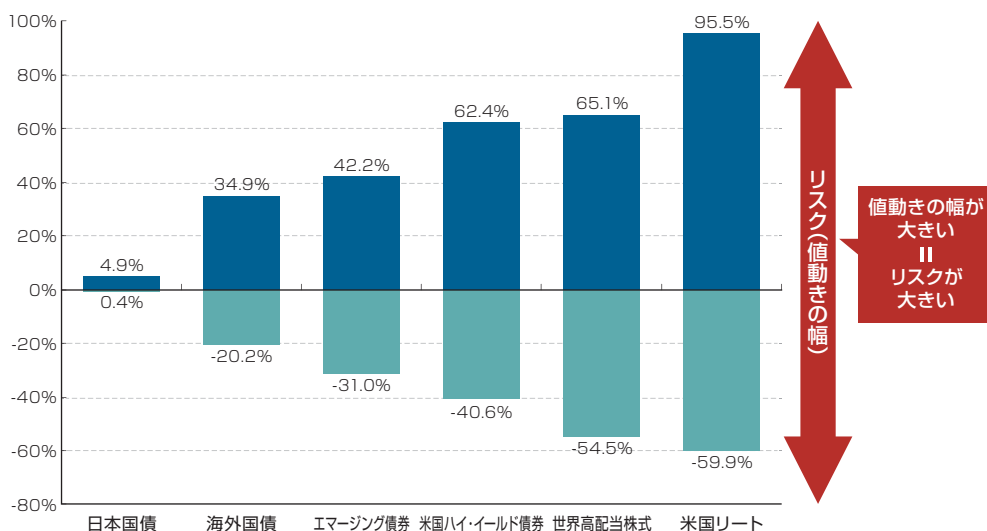
ポイント

1

ファンドのリスクを知りましょう。

分配型ファンドに限らず、
ファンドを選ぶ際にはま
ず、ファンドのリスクを知
ることが大切です。投資を
考える場合のリスクとは
「値動きの幅」のこと。値動
き大きいほどリスクが大
きい投資と考えられます。
一般的に分配金の高いファ
ンドほど、リスクの大きな
資産に投資をしている可能
性があります。

■ 分配型ファンドの主要投資先別 1年騰落率の最大値・最小値



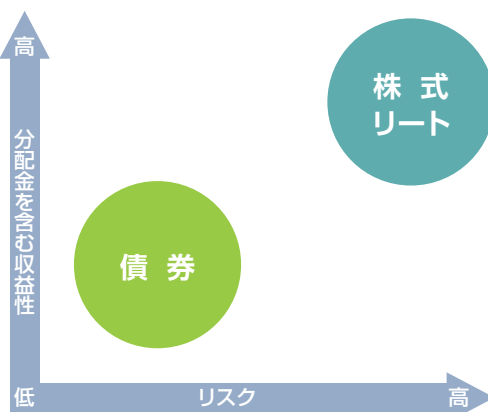
注：RIMESよりフィデリティ投信作成。期間：2007年1月末～2015年12月末。期間中の月末時点までの1年騰落率が対象。日本国債：シティグループ日本国債インデックス。海外国債：シティグループ世界国債インデックス(除く日本)。エマーヅング債券：JPモルガン・エマーヅング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル。米国ハイ・イールド債券：バンクオブアメリカ・メリルリンチ・USハイ・イールド・マスターⅡ・コンストレインド・インデックス。世界高配当株式：MSCIワールド・ハイ・ディビデンド・イールド・インデックス。米国リート：FTSE NAREIT Equity REITs インデックス。いずれも円ベース。
※上記は過去の実績であり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

リスクの大きさは、投資対象によって異なります。

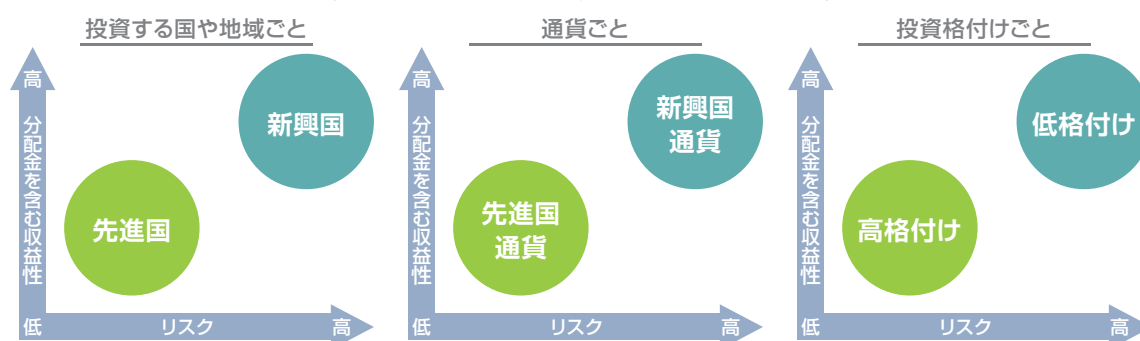
- **投資資産**
- 資産クラス： 株式、債券、リート
- 発行体： 国・政府、企業 など
- 投資格付け： 高格付け、ハイ・イールド など
- **投資する国や地域**
- 世界、米国、欧州、新興国、日本 など
- **投資対象の通貨**
- 円、米ドル、ユーロ など



例えば一般的に、
債券はリスクが低いと
考えられますが…



国や地域、通貨、格付けなどによって、リスクの度合いは変わります。



※上記は概念図であり、実際とは異なる場合があります。

投資目的に合わせて、ファンドのタイプを選びましょう。

どんなタイプの分配型ファンドを選ぶかは、あなたの投資目的しだい。
「受け取る分配金」と「投資元本の成長」のバランスを考えて、選びましょう。

■投資目的と、それに適したファンド・タイプの例

あなたの
投資目的

分配型ファンドの
タイプ

分配金も欲しいけど、
長期的な資産の成長にも
期待したい

例えば、老後など、
将来のための資産形成



分配金の
水準が控えめな
ファンド

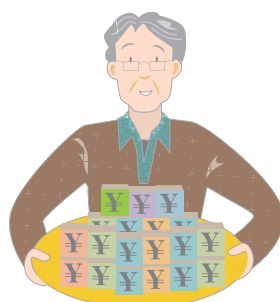
分配金を
できるだけ長期に、
安定的に受け取りたい

例えば、
毎月の生活費を
補うためや、
レジャーの
ためのお金



安定的な分配を
目指す方針の
ファンド

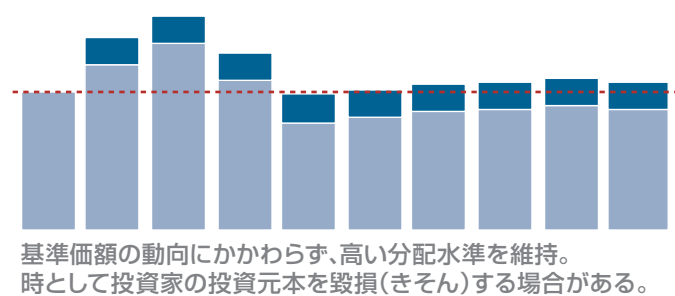
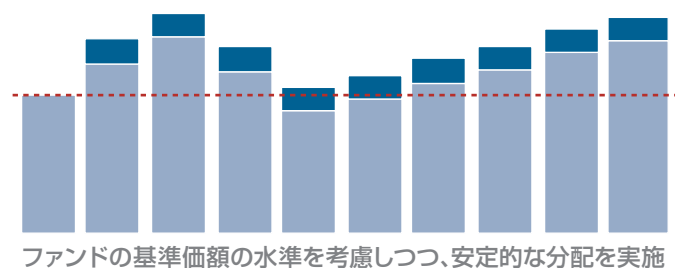
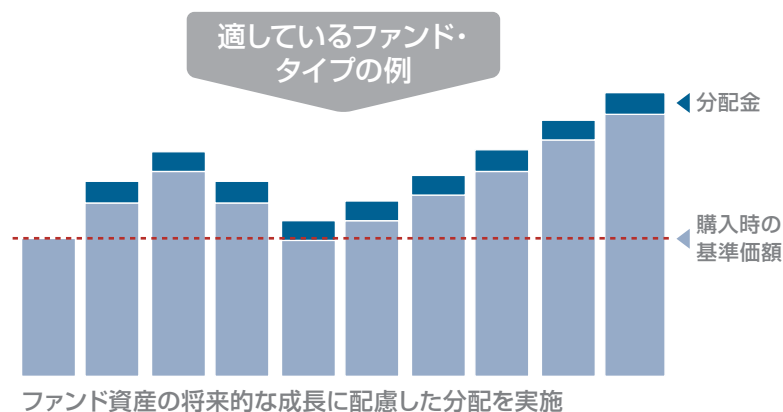
資産の長期的な成長よりも、
現在の投資の果実を
少しでも多く受け取りたい



高い分配を
目指す方針の
ファンド

あなたの投資目的に
いちばん近いのは、
どれですか？





このタイプの
ファンドのねらい

複利効果による
運用資産の成長



短期的な
運用成果の受け取り

※上記は概念図であり、実際とは異なる場合があります。

ワン
ポイント

分配金は誰がどうやって決めている？

分配金は、運用会社が今期の収益状況、過去の収益状況、投資対象の特性、設定来の運用成績、マーケットや為替の環境、分配金の持続性などを総合的に勘案して決定しています。分配金の水準は分配型ファンドの性質をあらわす重要な要素です。ファンドを選ぶ際には、過去の分配実績も参考にするとよいでしょう。

分配金の決定にあたって運用会社が考慮する事柄

今期の収益状況	過去の収益状況
投資対象の特性	設定来の運用成績
マーケットや為替の環境	分配金の持続性

など

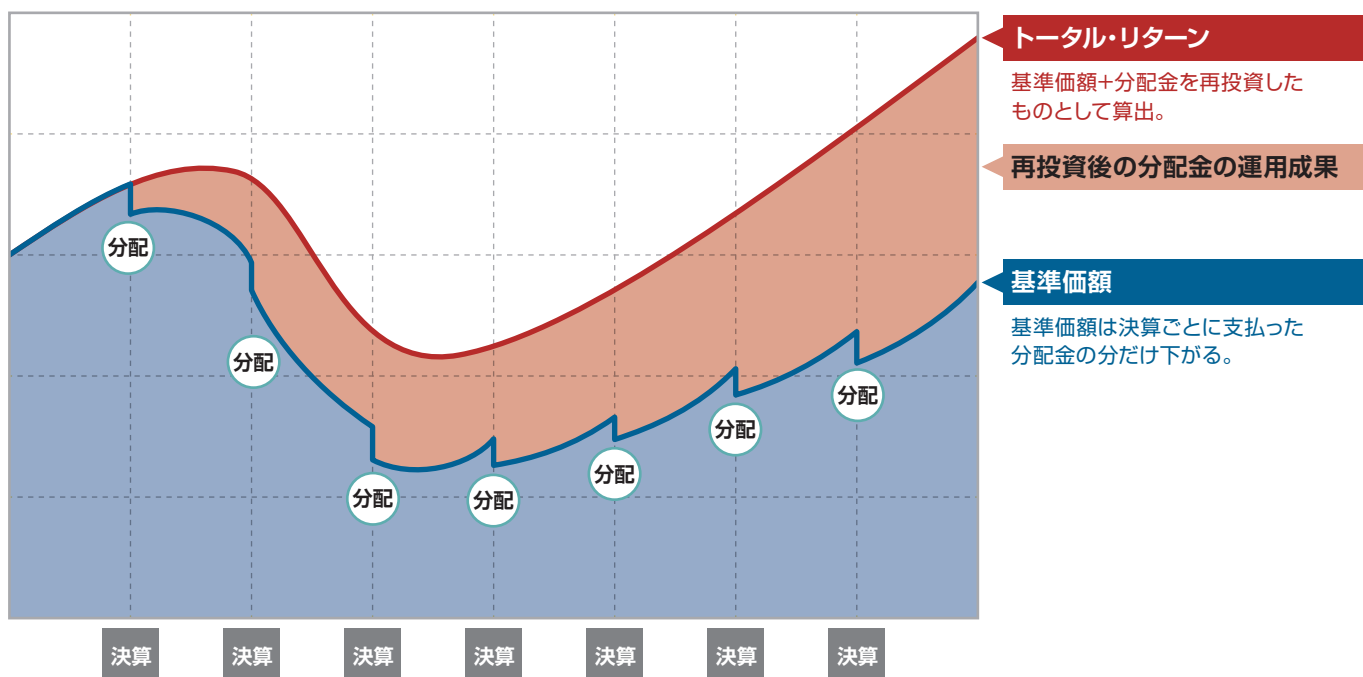
ポイント 3

ファンドは「トータル・リターン」で評価しましょう。

分配型ファンドは、定期的に分配金を支払うため、単純に基準価額だけで過去の運用成績を評価することはできません。トータル・リターンは、支払った分配金を再投資したものととして計算することで、そのファンド本来の収益率を算出しています。

トータル・リターンは同じタイプ同士(例えば、同じ資産を投資対象とする場合)のファンドの運用成績を比較する場合や、すでに保有しているファンドの運用成績を確認する時などに活用できます。

トータル・リターン推移のイメージ



※上記は概念図であり、実際とは異なる場合があります。
※販売手数料、税金等は考慮していません。

ワン ポイント

トータル・リターンを知るには？

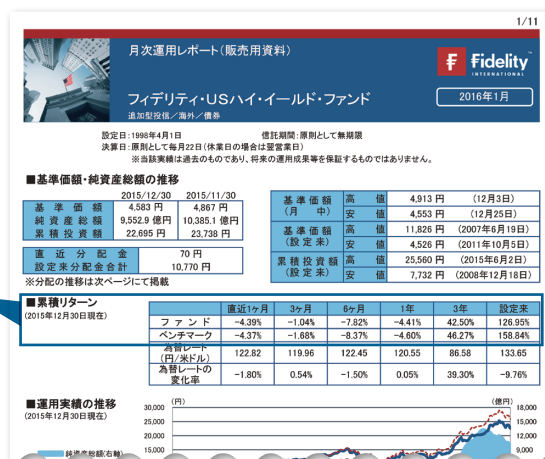
トータル・リターンは、ファンドの月次レポートや運用報告書などに示されている累積リターンの欄で確認することができます。

例:「フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド」の月次レポートの場合は、レポートのこの部分に示されています。

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	-4.39%	-1.04%	-7.82%	-4.41%	42.50%	126.95%
ベンチマーク	-4.37%	-1.68%	-8.37%	-4.60%	46.27%	158.84%

フィデリティ・USハイ・イールド・ファンドの累積リターン(2015年12月30日現在)
※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。
ただし、購入時手数料及び収益分配金にかかる税金は考慮していません。

※フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド月次レポートの例示は、あくまでも参考情報としてであり、当該ファンドを推奨するものではありません。なお、運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。



分配型ファンドを選ぶために
大切なポイントについて、
もう一度、おさらいしましょう



分配型ファンドを選ぶために大切なポイント 〈まとめ〉

ポイント
1

ファンドのリスクを知りましょう。

そのファンドがどのような資産に投資しているのか、
その投資対象にはどのようなリスクがあるのかをよく理解しましょう。

ポイント
2

投資目的に合わせて、ファンドのタイプを選びましょう。

どのタイプの分配型ファンドを選ぶかは、あなたの投資目的しだい。
「受け取る分配金」と「投資元本の成長」のバランスを考えて選びま
しょう。

ポイント
3

ファンドは「トータル・リターン」で評価しましょう。

分配型ファンドの運用成績はトータル・リターン
(そのファンド本来の収益性)で評価しましょう。

Part 2

分配金にまつわる よくある誤解と、 正しい理解

ここからは、お客様が陥りやすい誤解をもとに、
分配金のしくみに関する正しい理解を身に付けましょう。



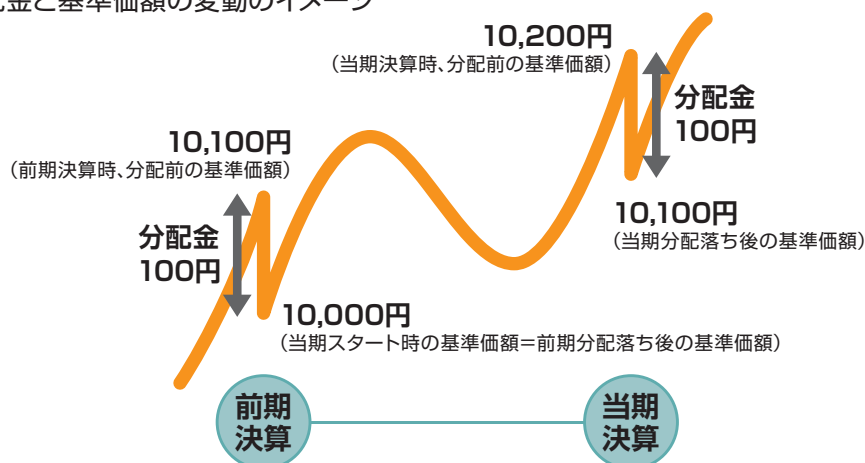
よくある誤解①

分配金と基準価額の値動きは関係ないと思う。

正しい理解

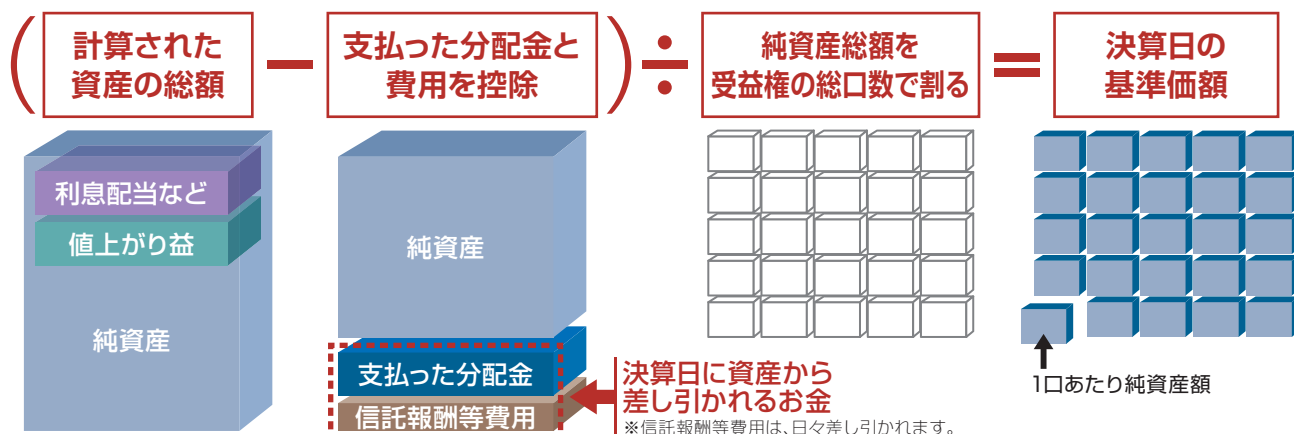
分配金はファンドの運用資産の中から支払われるため、
分配金の支払いは、**基準価額の下落要因**となります。

■分配金と基準価額の変動のイメージ



分配金を払い出すと、
その分、基準価額は下
がります。
ただし、決算日に分配
金を上回る収益があ
れば、基準価額が上昇
することもあります。

決算日の基準価額の計算方法



分配金は、信託報酬等の費用とともに、ファンドの資産から差し引かれ、決算日の基準価額に反映されます。

※国内で販売されている投資信託の基準価額は毎日計算され、翌日の新聞等に公表されています。 ※上記は概念図であり、実際とは異なる場合があります。
※上記が該当しない投資信託もあります。また、買付時に適用される基準価額はファンドによって異なります。 ※販売手数料、税金等は考慮していません。

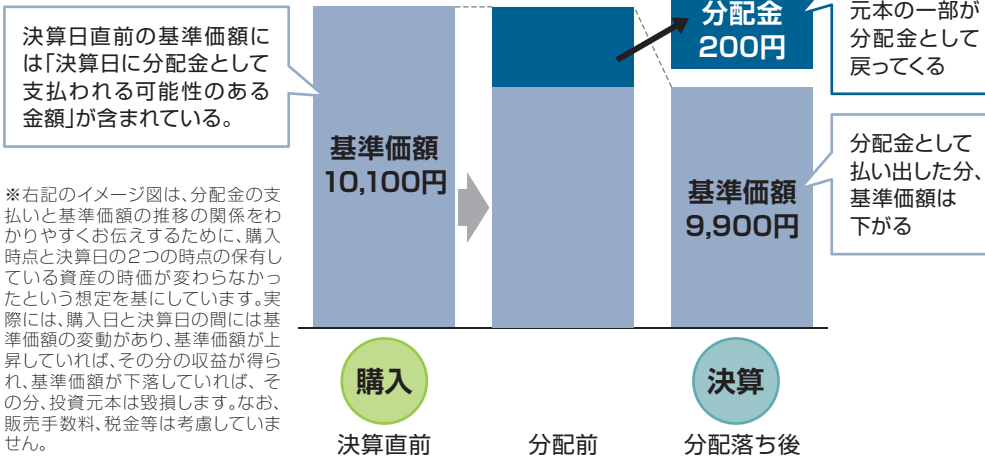
よくある誤解②

分配型ファンドは、決算の直前に買った方が、すぐに分配金がもらえてお得なのよね。

正しい理解

決算日の直前にファンドを購入し、分配金を受け取っても、それは購入時の投資元本の一部が手元に戻ってきているだけで、追加で利益を得ているわけではありません。

■決算直前～決算日(分配落ち後)の基準価額推移のイメージ



ワンポイント

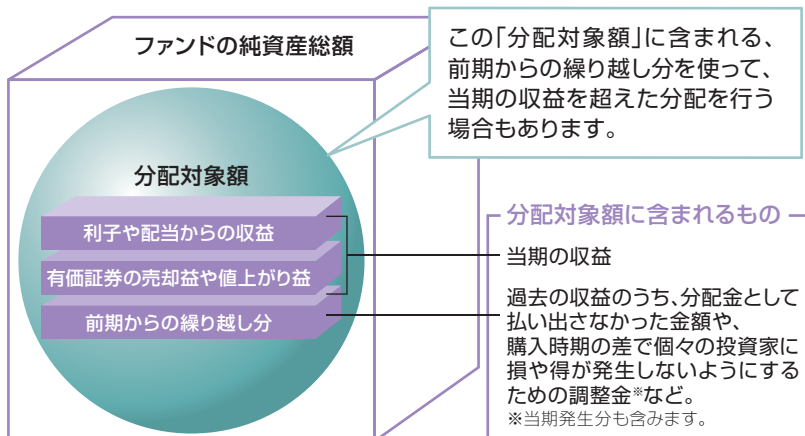
「分配落ち後の方が、1口あたりの基準価額が安く購入できてお得」というのも誤解です。分配落ち後の基準価額には、決算日に分配金として支払われた金額が含まれていないだけで、割安な基準価額でファンドを購入できるわけではありません。

よくある誤解③

分配金として支払い可能な金額は、ファンドの資産とは別枠で確保されているんだよね。

正しい理解

分配金として支払うことのできるお金は「分配対象額」として、ファンドの純資産の中に含まれており、別枠で確保されているわけではありません。



※上記は概念図であり、実際とは異なる場合があります。 ※販売手数料、税金等は考慮していません。
※運用会社やファンドによっては「分配原資」や「分配対象収益」等と称する場合があります。



よくある誤解④

分配型ファンドを選ぶなら、分配対象額が大きいファンドを選ぶわ。
だってその方が分配金がたくさんもらえるのよね。

過去の分配対象額の繰り越しによって、現在の分配対象額が大きくなっているファンドがあります。この金額が大きいほど当期の収益を超えた高い分配金の支払いが可能となりますが、分配対象額もファンドの総資産の一部なので、多く払い出せば、それだけファンドの基準価額は下がります。

正しい理解

**分配対象額の大きさだけでは、
分配金は決まりません。**

(P.5のワンポイント「分配金は誰がどうやって決めている？」もご参照ください)

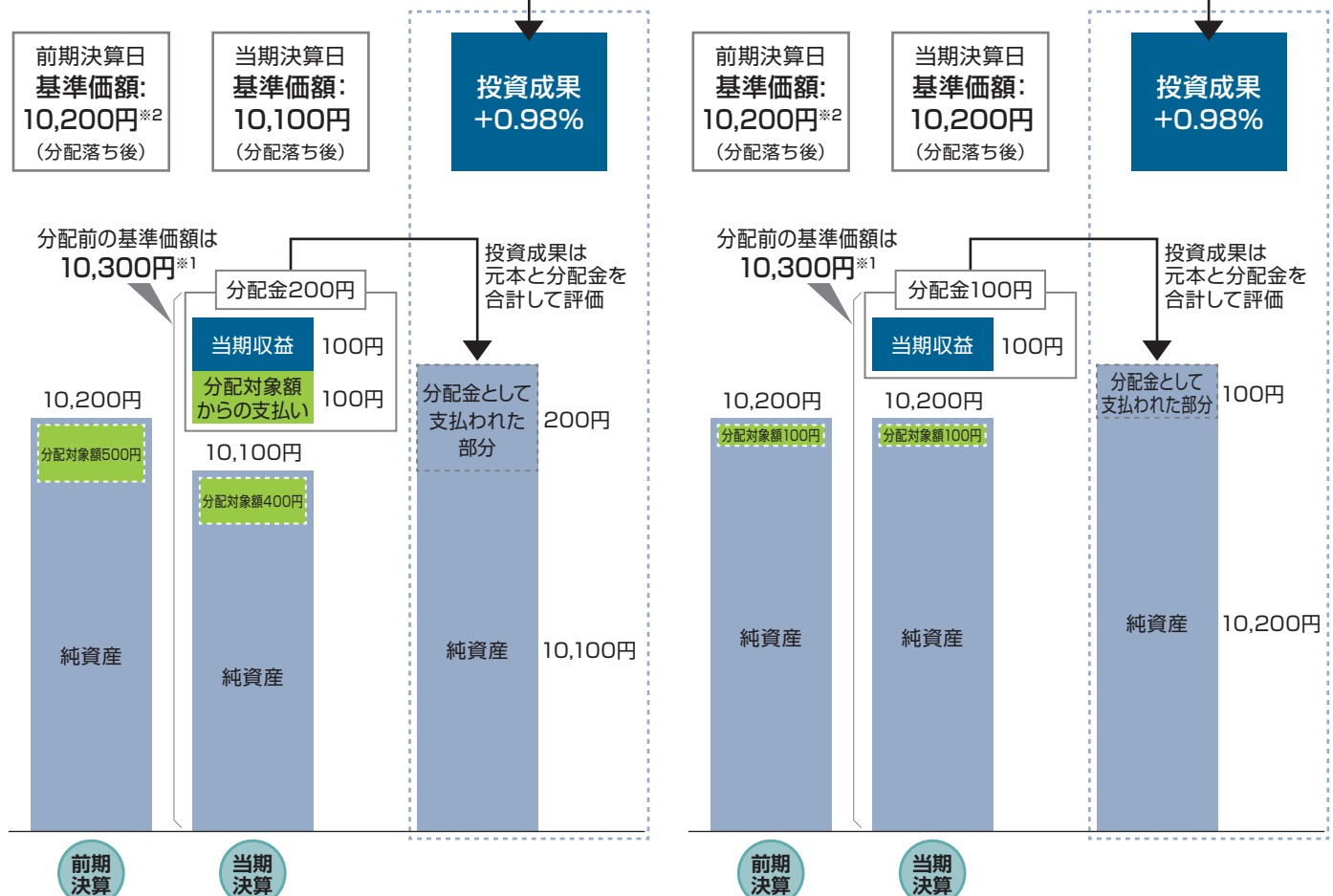
分配対象額からの支払いによって、当期収益以上の分配金が出せたとしても、それは当期の投資成果とは、関係ありません。

分配対象額が大きいファンドは、当期の収益に加えて、繰り越し分を活用した分配が可能。

分配対象額が少ないファンドは、当期の収益を超えた分配の実施に限界がある。

どちらの場合も、当期の投資成果は+0.98%で同じ
 $(10,300円^{※1} \div 10,200円^{※2} - 1) = 0.98\%$

※1: 当期収益を含む今期決算時、分配前の基準価額 ※2: 前期決算日、分配落ち後の基準価額



※上記は概念図であり、実際とは異なる場合があります。 ※販売手数料、税金等は考慮していません。



よくある誤解⑤

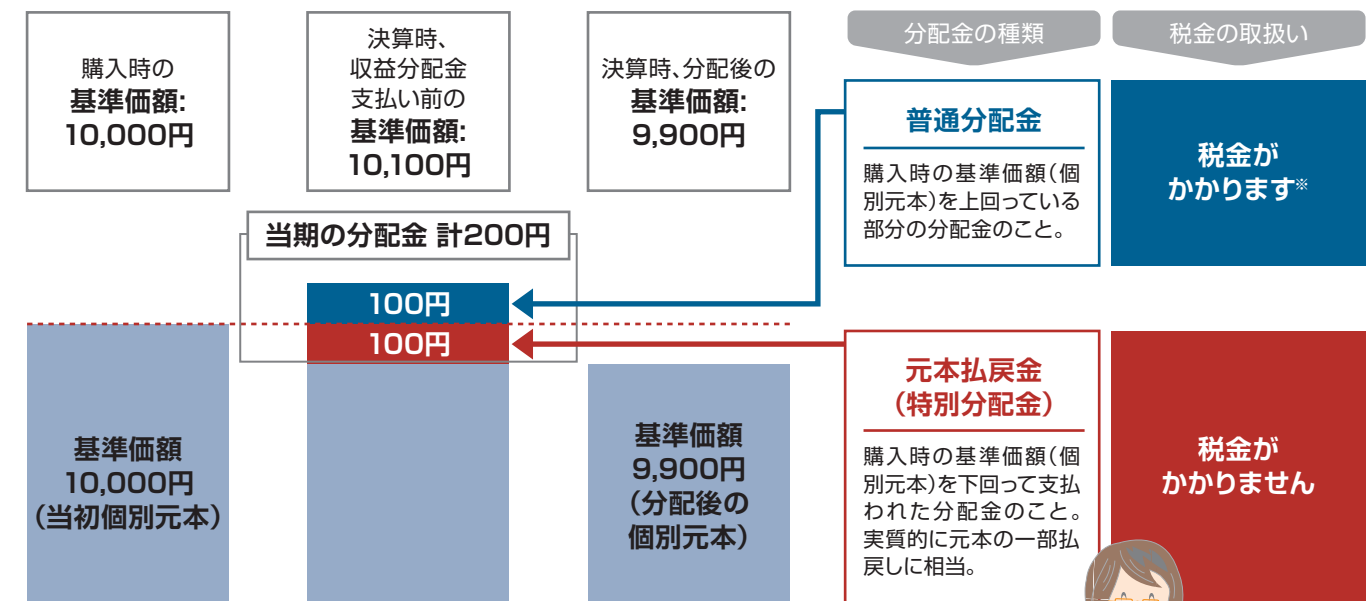
特別分配金とは、税金のかからない
「お得な」分配金なんだよね。

正しい理解

「元本払戻金(特別分配金)」には
税金がかかりませんが、
それは実質的に元本の払戻しに相当する
払い出しだから(利益ではないから)です。

※従来の「特別分配金」は「元本払戻金(特別分配金)」と表示することになりました。

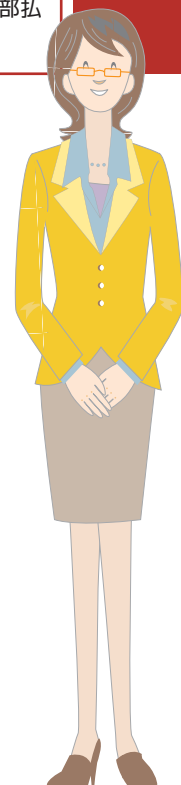
■分配金の種類と税金の取扱いの違い



※上記は概念図であり、実際とは異なる場合があります。
※販売手数料、税金等は考慮していません。

ワン
ポイント

受益者が受け取った分配金が、普通分配金なのか、元本払戻金(特別分配金)なのかは、一人ひとりによって異なりますので、必ず「分配金に関するご案内」等で確認するように心がけましょう。



- 当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。
- 当資料に記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。また、いずれも将来の傾向、数値、運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。
- 当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまでも参考として申し述べたものであり、その銘柄又は企業の株式等の売買を推奨するものではありません。
- 当資料にかかわる一切の権利は引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部又は全部の無断での使用・複製は固くお断りいたします。
- 投資信託のお申し込みに関しては、下記の点をご理解いただき、投資の判断はお客様自身の責任においてなさいますようお願い申し上げます。なお、当社は投資信託の販売について投資家の方の契約の相手方とはなりません。
- 投資信託は、預金または保険契約でないため、預金保険および保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。
- 販売会社が登録金融機関の場合、証券会社と異なり、投資者保護基金に加入しておりません。
- 投資信託は、金融機関の預貯金と異なり、元本および利息の保証はありません。
- 投資信託は、国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。従ってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。又、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては目論見書や契約締結前交付書面を良くご覧下さい。
- 投資信託説明書(目論見書)については、販売会社またはフィデリティ投信までお問い合わせください。なお、販売会社につきましては以下のホームページ(<http://www.fidelity.co.jp/fij/fund/japan.html>)をご参照ください。
- ご投資頂くお客様には以下の費用をご負担いただきます。
 - ・申込時に直接ご負担いただく費用: 申込手数料 上限 4.32%(消費税等相当額抜き4.0%)
 - ・換金時に直接ご負担いただく費用: 信託財産留保金 上限 1%
 - ・投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用: 信託報酬 上限 年率2.0844%(消費税等相当額抜き1.93%)
 - ・その他費用: 上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。目論見書、契約締結前交付書面等でご確認ください。※当該手数料・費用等の上限額および合計額等については、お申込み金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。ファンドに係る費用・税金の詳細については、各ファンドの投資信託説明書(目論見書)をご覧ください。

ご注意) 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、フィデリティ投信が運用するすべての公募投資信託のうち、徴収する夫々の費用における最高の料率を記載しておりますが、当資料作成以降において変更となる場合があります。投資信託に係るリスクや費用は、夫々の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に良く目論見書や契約締結前交付書面をご覧ください。

「収益分配金に関する留意事項」

投資信託における分配金は預貯金の利息とは異なります。分配金は計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があります。その場合、決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。投資者のファンドの購入価額によっては、ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さい場合もあるため、分配金の一部又は全てが、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。

MK160121-1